

年間第 27 主日 (マルコ 10:2-16)

神は結婚する男女に恵みも与えてくださる



下五島地区のスポーツ大会が無事開催されそうです。一時は台風でどうなることかと思いましたが、心配して祈ってくださった皆さんのおかげで開催にこぎ着けることが出来そうです。

地区長である私は「地区長賞」を準備するように依頼されていたので準備しましたが、地区長は出費のかさむ役回りですね。司祭団ソフトボール大会にも寸志を出しました。教区が「地区長手当」を新設してくれたらなあと思えます。

「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。」(10・5) ファリサイ派の人々は「モーセが離縁状を書いて離縁することを許しました」(10・4) と主張しましたが、モーセがこのような考えに至ったのは人間の頑固さに妥協したというより、人間の頑固さを告発するためだったとイエスは説明します。

ファリサイ派の人々は結婚を掟の立場からしか見ていません。結婚に神が込めてくださった意義や尊さを見ようとせず、結婚した人が掟に触れずに妻を離縁する抜け道までも議論していたのです。

イエスは神の思いである結婚の意義や尊さこそ大切にされるべきであると反論しました。イエスは旧約聖書の創世記を引用しながら、結婚が本来わたしたちに求めていることは何か、考えさせようとしています。わたしたちもイエスに導かれて結婚の意義や尊さを再確認しましょう。

イエスがファリサイ派の人々のために引用したのは創世記2章です。その中で神は「彼に合う助ける者を造ろう」(創2・20) とお考えになりました。一組の男性と女性が力を合わせて生きる者となることについて「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」(同2・24) と宣言しました。この部分をイエスは引用します。

ここから読み取れるのは、結婚の意義と尊さは、男女のカップルが対等に向き合う者として創造されたのだということです。男性を支えるためだけに女性が与えられたわけではありません。二人は一体となって結婚生活のさまざまな場面を体験し、ときには難局を乗り越えていく。そこに結婚生活の意義と尊さがあるということです。

人が前に向かって歩いていくためには、さまざまな問題を分析し、決断し、行動する必要があります。たいていは一人で決めるわけですが、一人で決めることは危険な場合もあります。その際、「向き合って助けてくれる者」がいて、力をもらえるのはどんなに有難いことでしょう。すぐそばに、助ける者がいる。それが、結婚生活なのだと思います。

また人間の成長のためには、苦しみの道を避けては通れません。苦しみがどんな意味を持っているのか、なぜこのような苦しみを通らなければならぬのか、自分一人では背負いきれないこともあるでしょう。苦しみの道を通って、人間として成長する。結婚した男女は、避けて通れない苦しみを、もはや二人ではなく一体となって、乗り越える力を互

いに与え合うのです。

もしかしたら、お互いへの興味や関心は次第に薄れていくかもしれません。毎日聞く話は同じように聞こえ、退屈かもしれません。また、年齢を重ねて次第に衰えていくことを互いに受け入れることは耐えられない、想像できないと思えるかもしれません。

けれども、結婚した二人は、神が結び合わせてくださっているのですから、神はたえず、必要な力と恵みを与えてくださいます。こうして結婚は、単に人間に求められている掟の一つにとどまらず、互いに成長し、互いの完成のために関わり合って生涯を全うする召し出しなのです。

結婚を数ある掟の中の一つと見るファリサイ派の人々は、神が結婚に求めている心を忘れて形式主義に陥り、形式に触れなければよいといった抜け道にまで議論が及んでいきました。イエスは結婚を定めた神の思いに目を向けさせました。

結婚の意義や尊さを神が用意してくださった恵みなのだとあらためて気づけば、夫婦で担っていく苦しみさえも尊いものに変わります。神が与えてくださった恵みに感謝する一週間といたしましょう。

10:2 ファリサイ派の人々が近寄って、「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。

10:3 イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。

10:4 彼らは、「モーセは、離縁状を書いて離縁することを許しました」と言った。

10:5 イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。

10:6 しかし、天地創造の初めから、神は人を男と女とにお造りになった。

10:7 それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、

10:8 二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。

10:9 従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

10:10 家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。

10:11 イエスは言われた。「妻を離縁して他の女を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。

10:12 夫を離縁して他の男を夫にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

10:13 イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。

10:14 しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。

10:15 はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

10:16 そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。